

第14回 北海道特別支援教育学会

令和元年度 研究大会

当事者が楽しく生活するためにできること
～見えにくい特性や困難性のライフステージを通じた気づきと支援～

期 日 令和元年度 10月12日(土) 10月13日(日)

会 場 Hokkaido Academy of Special Needs Education
北海道教育大学旭川校

〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目

主 催 北海道特別支援教育学会

後 援 北海道教育大学
北海道教育委員会
北海道特別支援学校長会
北海道特別支援学級設置学校長会
北海道児童青年精神保健学会
北海道言語障害児教育研究協議会
北海道情緒障害教育研究会
日本臨床発達心理士会北海道支部
北海道乳幼児療育研究会
旭川市教育委員会
北海道特別支援学校長会道北支部
北海道特別支援学校副校長・教頭会道北支部

令和元年度 第14回北海道特別支援教育学会研究大会

—開催要項—

令和元年度の研究大会は旭川で行われます。ライフステージを通して、さまざまな特別支援のアプローチが日々研究・実践されていますが、「当事者が楽しく生活すること」は全ての支援において留意すべきことです。そのために当事者目線に立つことは不可欠であります。当事者家族はもちろん、支援者、また当事者自身も気づいていない特性や課題は多々あると思います。本大会ではまず、これまで気づかれにくかった発達性協調運動障害について、長崎大学の岩永先生に最新の情報を教えていただきます。それに続き、大会シンポジウムでは発達障害を中心に現在どのような支援体制がとられているのか、また今何をすべきなのかを国という大枠から地域、そして個々の教育・福祉機関および当事者家族という視点で考えていきます。参加される方々にとって、本大会2日間にわたって何かしら自分にとって有意義な情報を収集し、また実践的な意見交換ができる時間となることを願っております。

第14回大会長 萩原 拓

日程

大会1日目 (10/12)

11:00~	11:15~12:00	12:15~12:45	13:00~15:00	15:00~15:30	15:30~17:30	18:30~
受付	理事会	総会	基調講演	休憩 道北支部総会	大会企画 シンポジウム	移動 懇親会

大会2日目 (10/13)

9:30~	10:00~11:30	11:30~12:50	13:00~14:30
受付	シンポジウム (午前の部)	昼食 ポスター発表	休憩 シンポジウム (午後の部)

大会参加費

学会員 2,000円 当日会員 4,000円 (学生会員1,500円)

理事会のご案内

12日(土)の11:15より理事会をL332教室で開催致します。役員の皆様はご出席をお願い致します。

総会

12日(土)の12:15より北海道特別支援教育学会総会をL301教室で行います。学会員の方はご出席ください。

プログラム

■ 大会1日目/ 12日 (土)

●●● 【基調講演】 (L301教室)..... 13:00~15:00

『発達性協調運動障害と療育』

長崎大学医学部保健学科 教授 岩永竜一郎氏

発達性協調運動症 (DCD) は、微細や粗大運動の苦手さを主訴とするいわゆる不器用な特性であり、5-6%の子どもに見られると報告されています。これまであまり知られていない、あるいは療育につながりづらい特性でもあるため、全国でご活躍されている岩永竜一郎先生に作業療法士の立場から DCD への気づき、療育や支援に関してご講演いただきたいと思えます。

気づかれづらい、配慮されづらい特性であるが故に、就学前であっても叱責を受けたり失敗経験を積み重ねる子どもも多いようです。保育士や、教師が DCD に気づくための取り組みや、スクリーニング方法などはあるのでしょうか。

年齢や目標に応じて、様々な介入方法がとられるようです。障害志向型アプローチ、課題志向型アプローチなど、各アプローチの違いや、その使い分けに関しても詳しく解説していただきます。また「日常作業遂行のための認知的オリエンテーション(CO-OP)」という新しい介入方法の話題にも触れていただく予定です。

●●● 【大会企画シンポジウム】(L301 教室)... 15:30~17:30

『発達障害児者のライフステージを通じた支援において、
我々は今何が出来て、何が課題なのか？

～ 国と地域双方の視点による討論 ～ 』

報告者：厚生労働省社会・援護局 障害福祉課	発達障害施策調整官	田中 尚樹 氏
報告者：旭川市教育委員会学校教育部教育指導課	課長補佐	白石 真 氏
報告者：旭川市立北門中学校	校長	村田 昌俊 氏
指定討論：長崎大学医学部保健学科	教授	岩永 竜一郎氏
コーディネーター：北海道教育大学旭川校	教授	萩原 拓 氏

本シンポジウムでは、大会のテーマでもある「当事者の楽しい生活」を基盤として、「実際にうまくいっていること」と「喫緊の課題」の2点に関し、国、地方、教育機関、当事者の家族それぞれの立場からご報告いただきます。マクロからミクロへ、サービスの提供側からサービスの消費側へ視点を移しながら、現状と課題について考えていきたいと思えます。

厚生労働省の田中尚樹先生には、国全体の動きをわかりやすくご説明いただきます。その上で、国として「うまくいっていること」が当事者・家族や支援者には見えにくい、あるいは感じにくいこともあるため、この点も考慮してお話いただく予定です。

旭川市教育委員会の白石真先生には、特に地域として「見える・感じられる成果」を中心にご報告いただく予定です。旭川という一地域ではありますが、旭川地域の人間も気づいていない「成果」も多くあると思えます。また、他地域からの参加者にとっては、地元との比較が可能になる貴重な機会になることと思えます。

旭川市北門中学校の村田昌俊先生には、教育者と家族という2つの立場から、現場における特別支援の成果と、喫緊の課題についてお話しいただく予定です。

長崎大学の岩永竜一郎先生には、各先生方のご報告を受け、また長崎との比較を通しながらご質問やご意見をいただく予定です。

それぞれの立場から「言いつらいこと」も出てくるとは思いますが、会場を巻き込みながら「実際にはどうなのか」、「当事者の楽しい生活」に本当に必要なことは何なのか踏み込んで考える機会にしていけたらと思えます。

■ 大会2日目/ 13日 (日)

シンポジウム午前の部..... 10:00~11:30

HATO プロジェクト - 大会合同企画シンポジウム P101 教室

『将来の自立に向けて何が必要で何が課題なのか』

企画者・司会 片桐 正敏 氏 (北海道教育大学旭川校 准教授)

話題提供者 岡田 直人 氏 (当麻町立当麻中学校 教諭)

深見 義明 氏 (北海道立上川高校 教諭)

岩田 吉生 氏 (愛知教育大学 准教授)

安田 小響 氏 (北海道教育大学旭川校 学生支援コーディネーター)

公立の小中学校では、地域から実に多様な子どもが集います。特に中学校では勉強が難しくなることから生徒間の学力差が大きくなり、また思春期に差し掛かることから人間関係の歪みも生じやすくなります。通常学級における学習面または行動面で気になる生徒は、将来「楽しい生活」や「自立」を目指す上で、この中学校という時期に何が必要になるのでしょうか。中学校の最前線で活躍されている岡田直人先生に、中学校の現状を中心に話題提供をしていただきます。

気になる生徒達が選択する進路の1つに「公立高校」があります。気になる生徒が在籍する高校の現状とはどのようなものなのでしょうか。またこの時期に、将来の自立に向け必要なこと、課題とはどのようなものなのでしょうか。高校現場で活躍されている、深見義明先生に高校の現状を中心に話題提供していただく予定です。

気になる生徒に対する高校での配慮とはどのようなことをすれば良いのでしょうか。高校の特別支援教育は現在発展途上でもあります。愛知教育大学の岩田吉生先生には、事例をご報告いただき、高校における学習面での合理的配慮を中心にお話しいただきます。

大学に進学した生徒であっても、進学後に不調を来すことがあります。それ以前の学生生活では特に問題のなかった生徒が、大学生活の中で初めて課題を顕在化させることもあります。そこから見えてくる、「生徒に必要なもの」とはなんのでしょうか。臨床心理士としてご活躍されている安田小響先生に大学生の現状と課題についてご報告いただく予定です。

各ステージ毎では見えずらい「将来の自立に向けて必要なこと」も、学齢期後半のライフステージを通して見たとき、何か見えてくるかもしれません。フロアの皆さんとも一緒に考えていきたいと思えます。

『支援を必要とする子どもたちが楽しく学び、生活するために特別
支援学校ができること』

司 会 本母 世跳 氏（北海道東川養護学校 教諭）

話題提供者 田中 英規 氏（北海道東川養護学校 教諭）
池田 文宏 氏（北海道東川養護学校 教諭）
逢坂 一伸 氏（北海道東川養護学校 教諭）
橋詰 郁郎 氏（北海道旭川盲学校 教諭）
岡田 則将 氏（東川町立東川小学校 教諭）

特別支援学校のセンター的機能の1つとして、特別支援コーディネーターが地域の幼稚園や保育園、諸学校へ赴き、支援の必要な子どもたちに関わる指導助言を行っている。

コーディネーターは、各機関のニーズやオーダーに応じて、事前に準備を整え、当日のコンサルテーションに臨んでいる。しかしながら、限られた時間の中で、十分な指導助言が行えない場合も少なくない。そこには、特別支援学校のコーディネーター自身が抱える課題に加え、ニーズやオーダー等に関わる情報共有の不足など、各機関との連携不足があると考えられる。

そこで、本シンポジウムは、「知れば納得！特別支援学校の相談支援の上手な使い方」というサブテーマを掲げ、特別支援学校のベテラン、中堅、若手コーディネーターによる話題提供を通して、特別支援学校のコーディネーターと各機関の連携を強め、より効果的な支援が行える環境づくりについて、参加者の皆様と議論を深めたい。

さらに、特別支援学校のコンサルテーションを通して、各機関に蓄積された知見等がよりよく活用されている実践について話題提供を行い、支援を必要とする全ての子どもたちに対して質の高い支援を行うためのコツを共有したい。

シンポジウム午後の部..... 13:00~14:30

自主シンポジウム P101 教室

『北海道の多様な学び場におけるキャリア発達支援を考える』

- 企画者 立田 祐子 氏（北海道大学 准教授）
 渡邊 倫 氏（TASUC 株式会社）
- 話題提供者 立田 祐子 氏（北海道大学 准教授）
 橋本めぐみ 氏（旭川高等支援学校 教諭）
 渡邊 倫 氏（TASUC 株式会社）
 道添 範大 氏（北海道札幌伏見支援学校 教諭）
- 指定討論 矢口 明 氏（名寄市立大学 准教授）

日本学生支援機構の調査によると、平成 30 年度の大学・短期大学等の障害学生数は増え続けて約 3.3 万人となり、高等教育において障害のある学生が増加の傾向にある。また、北海道の後期中等教育では、少子化が進む中ではあるが、平成 21 年以降に 10 校の知的高等部を開設する等、特別支援学校における教育の充実を図っている。

社会人に目を向けると、道内の民間企業における雇用者数は、過去最高 1.4 万人であり、雇用が促進される(平成 31 年厚労省北海道労働局)。しかし、文部科学省の調査によれば、平成 29 年 3 月知的障害の特別支援学校高等部の進路は、福祉施設 61.5%、企業就労 32.9%、進学 0.4%であり、依然として多くが福祉施設に入所・通所するという結果である。多様化が進む子どもたちに応じていく現場では、何をゴールとして教育をしていけばいいのだろうか？

今回のシンポジウムでは、後期中等教育及び高等教育の障害学生に対する支援の実際をとおして、一人ひとりのキャリア発達を支援するための「教育内容」や「支援の仕組み」を考える機会としたい。それは、内容や仕組みのコアを知ることが、資源の地域格差によらず、地域に根付いた教育支援の要点になると考えているからである。

自主シンポジウム P203 教室

『子ども理解に基づく指導 ～自立活動を見直す～』

- 企画者 鎌田 隆仙 氏（上川教育局 特別支援教育スーパーバイザー）
後藤 博美 氏（旭川市立忠和小学校 教諭）
小松田 歩 氏（旭川市立知新小学校 教諭）
脇坂 文貴 氏（旭川市立東光小学校 教諭）
- 司 会 脇坂 文貴 氏（旭川市立東光小学校 教諭）
- 話題提供者 後藤 博美 氏（旭川市立忠和小学校 教諭）
- 助 言 者 山下 公司 氏（札幌市立南月寒小学校 教諭）
池田 千紗 氏（北海道教育大学札幌校 准教授）
前野紀恵子 氏（札幌大学女子短期大学 教授）

自立活動は、子どもたちの学習上又は生活上の困難の改善及び克服を目指して行われる教育的活動である。

障がいのある児童生徒に対して行われる自立活動は、「将来においての必要性はあるか」「今、指導すべき課題であるか」「生活の質の向上が図られるか」「本人、保護者のニーズに対応するものか」等を考慮し、子どもを取り巻く様々な場面で行われなければならない。

そのためには、子どもの実態把握を的確に行い、本人の思いを大切にしながら指導内容を考え、校内や関係機関との連携を図りながら進めていく必要がある。しかしながら、昨今、自立活動の指導はどうあるべきか、どのような内容を行えばよいのかという、指導に対する不安や悩みの声も少なくはない。

本シンポジウムでは、特別支援学級での実践についての話題提供を基に、自立活動の内容を考えるには、どのような視点で子ども理解を行い、実態に応じた適切な指導・支援に繋げていくとよいのかについて多様な視点から検討する機会としたい。

ポスター発表 11:30~12:50 P102 教室

- 1 中国の瀋陽市における知的障害教育
王晴（北海道教育大学教育学研究科）
青山真二（北海道教育大学札幌校）
- 2 特別支援学校における教育実習の充実に関する研究
矢口明（名寄市立大学）
- 3 通常学級の生徒の学びを支える放課後サポート学習会の取り組み
～個の支援と校内連携を通して～
吉野さやか（浦河町立浦河第一中学校）
五十嵐靖夫（北海道教育大学函館校）
- 4 特別支援学級における外部専門家を活用した体づくりの実践
～姿勢と書字動作の変化に着目して～
池田千紗（北海道教育大学札幌校）
- 5 常学級児童の算数文章題と国語能力の相関について
～発達障害児の算数文章題のつまづき要因の分析に向けて～
宿野部惇平（北海道教育大学大学院教育学研究科）
五十嵐靖夫（北海道教育大学函館校）
- 6 北海道の知的障害特別支援学校を対象とした準備体操の実態調査
武田美里 瀧澤聡（北翔大学生涯スポーツ学部）
磯貝隆之（北翔大学教育文化学部）
- 7 小学生を対象とした触察体験を用いた視覚障害理解学習の効果
米田真緒（北海道教育大学大学院教育学研究科）
細谷一博（北海道教育大学函館校）
- 8 障害等のある中学生の部活動の参加と保護者のニーズと課題
福島聖也（北海道教育大学大学院教育学研究科）
千賀愛（北海道教育大学札幌校）
- 9 ダウン症児のトランポリン運動における跳躍姿勢変化
中門優里（北海道教育大学大学院教育学研究科）
安井友康（北海道教育大学札幌校）

10 効果的な個別の教育支援計画作成法の開発と支援力育成にむけて

～北海道教育大学特別支援教育プロジェクトの取り組み～

安井友康 青山眞二 齊藤真善 池田千紗 千賀愛 三浦哲(北海道教育大学札幌校)
二宮信一 小淵隆司 戸田竜也 (北海道教育大学釧路校)
五十嵐靖夫 北村博幸 細谷一博 (北海道教育大学函館校)
大山祐太 (北海道教育大学岩見沢校)
萩原 拓 蔦森英史 片桐正敏 (北海道教育大学旭川校)
小野寺基史 (北海道教育大学教職大学院)
太田千佳子ほか(北海道教育大学附属特別支援学校)
吉吞正美ほか(北海道教育大学附属札幌小中学校特別支援学級)

11 成人 ASD 者を対象としたモニタリング調査による一斉授業場面における課題について

～授業場面視聴中の視線分析と合わせた検討～

齊藤真善 (北海道教育大学札幌校)
安達潤 (北海道大学教育学研究院)

12 社会不適合状態にある青年・成人期の発達障害者の生活スキル支援

長尾明佳 (北海道教育大学大学院教育学研究科)
萩原拓 (北海道教育大学旭川校)

13 自閉スペクトラム症のある成人の社会的自立に向けた余暇支援

赤嶺大和 (北海道教育大学大学院教育学研究科)
萩原拓 (北海道教育大学旭川校)

14 管理職が求める教員の資質は何か

逢坂一伸 (北海道教育大学大学院教育学研究科)
片桐正敏 (北海道教育大学旭川校)

15 知的ギフトドの子をもつ親の養育行動

長瀬桃果 (北海道教育大学大学院教育学研究科)
片桐正敏 (北海道教育大学旭川校)

16 小学校1年生の音韻処理能力が音読流暢性に及ぼす効果の検討

亀山麻子 (北海道教育大学大学院教育学研究科)
蔦森英史 (北海道教育大学旭川校)

★自主シンポジウムについて

1. 10月13日(日)のシンポジウムに関する打ち合わせは、P202教室をお使いください。
2. 発表等の時間配分は企画者にお任せしますが、制限時間は厳守して下さい。各教室にはプロジェクター等のAV機器が整備されています。RGBケーブルまたはHDMIケーブルを準備しております。
3. PCは各自で持参下さい。機器の操作は各自でお願いします。
4. 映像は、なるべくファイルにしてPCによる再生をお願いいたします。
5. 配布資料がある場合は各自で印刷をお願いいたします。

★ポスター発表について

1. 在籍責任時間は特に定めませんが、11:30~12:50分の発表時間内になるべく多くの質問者に答えただけよう、お願いいたします。
2. 縦160cm×横80cm(掲載可能範囲:縦127cm×横80cm)のパネルを用意いたします。A0サイズよりも若干横幅が狭くなっておりますのでご注意ください。隣のパネルとの距離をあけてありますので、パネルから多少はみ出す形での掲示も可能です。テープを用意しておりますので、そちらでパネルに貼り付けていただく予定です。
3. パネルの上部左側の発表番号に従ってそれぞれポスターを掲示して下さい。上部に題目・発表者名・所属を掲示して下さい。文字は読みやすい大きさと印刷して下さい。
4. ポスター撤去は発表者が責任をもって実施して下さい。撤去されないポスターは大会事務局で破棄いたします。
5. 発表者は13日(日)の11:00~11:15までにポスター会場受付を済ませ、発表パネルに掲示して下さい。

★懇親会について

- 会場: GOTAKU(ゴタク) (旭川市4条8丁目モダ4・8ビルB1F)
- 日時: 10月12日(土) 18:30~20:30
- 会費: ¥4,500(当日会場でお支払いください)
- その他: 席には限りがありますので、定員に達し次第締め切らせていただく場合があります。
送迎バスはありません。大学から各自、ご移動ください。
会場までの地図は受付でお渡しいたします。

★道北支部総会について

12日(土)15:00より道北支部総会をL332教室で行います。道北支部会員の方はご出席ください。

★昼食について

学会期間中、学生食堂は営業していませんが、13日(日) 11:00~13:00 まで大学生協の売店を開店いたします。ぜひご利用ください。また近隣にコンビニエンスストアがございます。

★大会参加費

学会員 2,000 円、当日会員 4,000 円、学生 1,500 円 になります。

学会年会費は 4,000 円となります。当日、学会員になりたい方につきましては、当日の参加費 2,000 円と同時に学会入会の手続き(合計 6,000 円)をお願いいたします。

★その他

3年間会費未納の方は学会除名対象となりますのでご了承下さい。なお、所属や住所等の変更がございましたら、速やかに学会事務局までご連絡下さい。

★お問い合わせ

◎大会および発表に関するお問い合わせは、旭川大会事務局(蔦森)までご連絡下さい。

◎学会に関するお問い合わせは、学会事務局長(齊藤)までご連絡下さい。

北海道特別支援教育学会第 14 回大会 事務局

〒070-8621 旭川市北門町 9 丁目 北海道教育大学旭川校

(旭川大会事務局) 蔦森 英史

TEL 0166-59-1395

E-mail tsutamori.eishi@a.hokkyodai.ac.jp

北海道特別支援教育学会 事務局

〒002-8501 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1-3 北海道教育大学札幌校

(事務局長) 齊藤 真善

TEL&FAX 011-778-0662

E-mail saito.masayoshi@s.hokkyodai.ac.jp

北海道特別支援教育学会 第 14 回旭川大会 HP

<http://hokutoku.net>

—会場案内—

キャンパスマップ



大会1日目10月12日(土)
講義棟3F

大会1日目10月13日(日)
共通教育棟1F & 2F

